

マレーシアにおける新型コロナウイルスの感染状況等について

本資料は、在留邦人の方々の判断に資する参考資料として、マレーシア政府等の最新の公開データを基に作成したものです。更新頻度は週1回を予定しており、その間には一部最新でない情報が含まれる事もありますが、その点ご注意ください。

(内容)

1. 感染状況（全体、死亡例、カテゴリー別／B I D、州別、実効再生産数、変異株）
2. 病床状況（政府系・私立系病院のコロナ用病床状況、クランバレー地域使用率推移）
3. ワクチン（調達状況、ワクチン接種計画、接種状況）
4. 国家回復計画（NRP）
5. 濃厚接触者又は陽性者になった場合の流れ

令和3年7月30日
在マレーシア日本国大使館

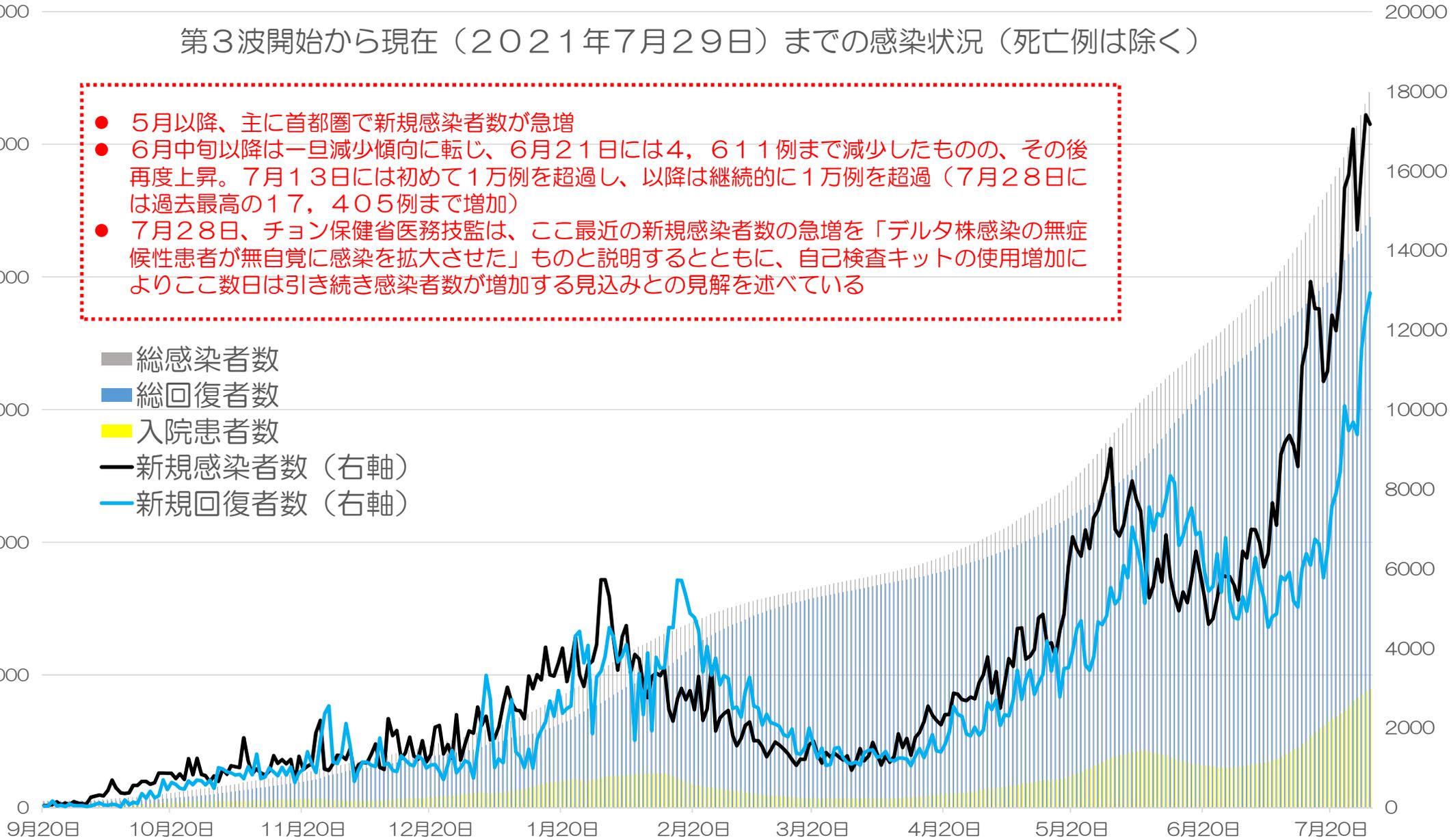
1. 感染状況

(全体、死亡例、カテゴリー別／B I D、州別、実効再生産数、変異株)

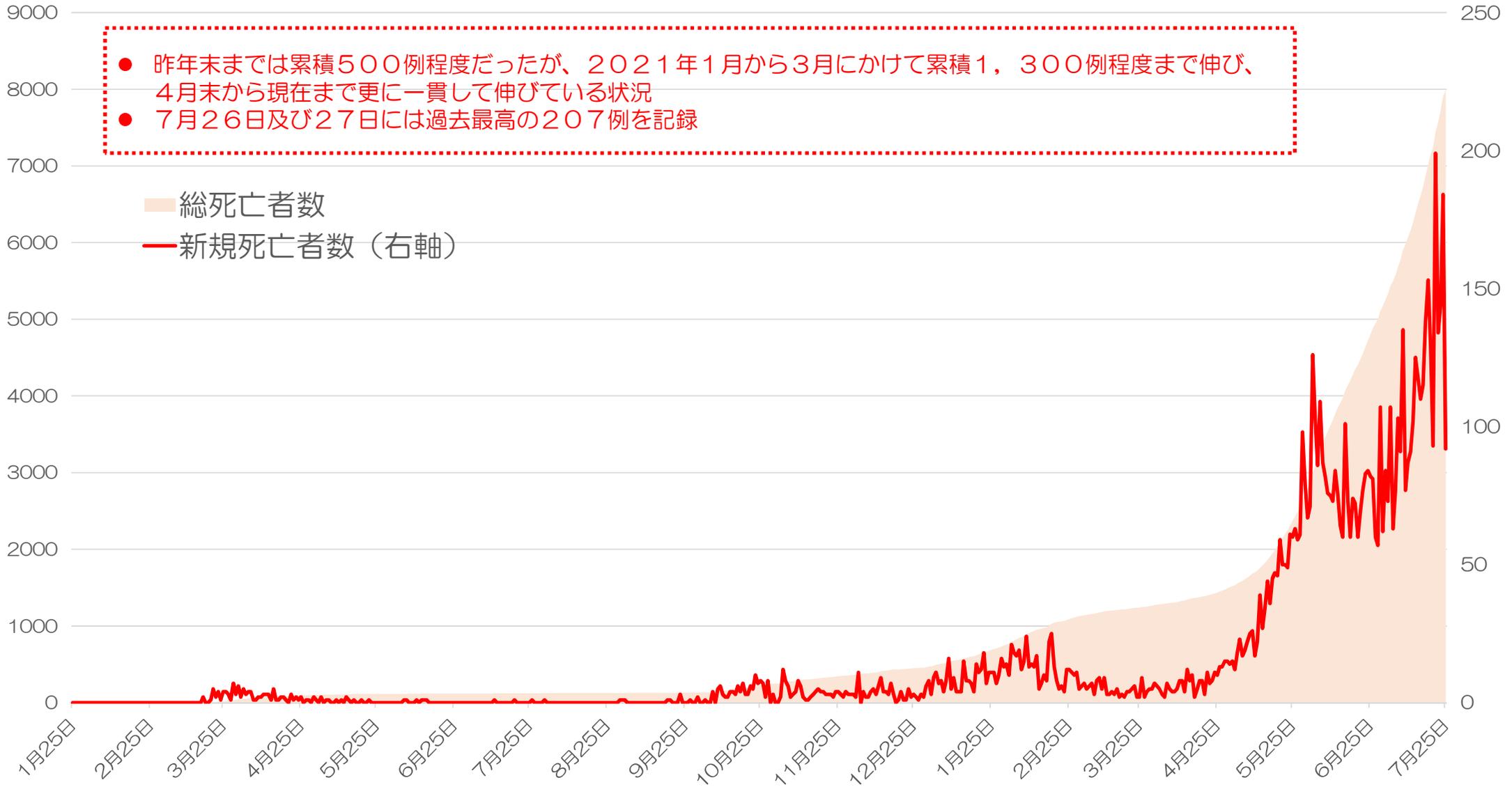
第3波開始から現在（2021年7月29日）までの感染状況（死亡例は除く）

- 5月以降、主に首都圏で新規感染者数が急増
- 6月中旬以降は一旦減少傾向に転じ、6月21日には4,611例まで減少したものの、その後再度上昇。7月13日には初めて1万例を超過し、以降は継続的に1万例を超過（7月28日には過去最高の17,405例まで増加）
- 7月28日、チョン保健省医務技監は、ここ最近の新規感染者数の急増を「デルタ株感染の無症候性患者が無自覚に感染を拡大させた」と説明するとともに、自己検査キットの使用増加によりここ数日は引き続き感染者数が増加する見込みとの見解を述べている

■ 総感染者数
■ 総回復者数
■ 入院患者数
— 新規感染者数（右軸）
— 新規回復者数（右軸）



2020年1月から現在（2021年7月29日）までの死亡例推移



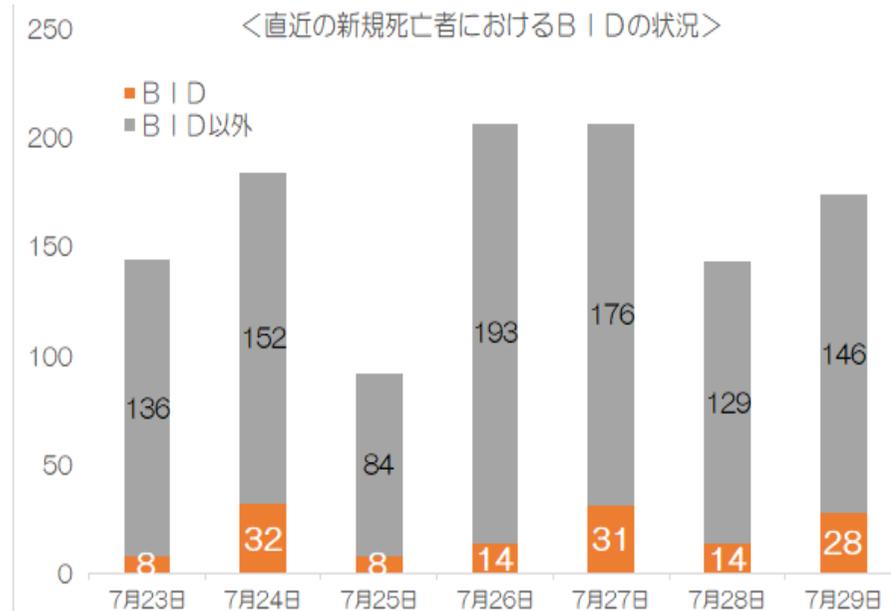
- 昨年末までは累積500例程度だったが、2021年1月から3月にかけて累積1,300例程度まで伸び、4月末から現在まで更に一貫して伸びている状況
- 7月26日及び27日には過去最高の207例を記録

総死亡者数
新規死亡者数 (右軸)

直近の新規感染者の 카테고리別報告及び新規死亡者における B I D の状況

- 7月16日以降、マレーシア保健省が新規感染者の 카테고리別割合（重症度別割合）を公表し始め、7月26日以降は各 카테고리感染者のワクチン未完了率も公表されている
- 当該 카테고리報告はあくまで感染報告時点での重症度を表すものであり、その後の悪化・改善を反映できていない点に留意が必要なものの、本データより、報告時点では98%近くが「 카테고리1（無症候）」又は「 카테고리2（軽症）」であり、また感染者のほとんどがワクチン未完了者であることが明らかとなった
- 一方、直近の新規死亡者数のうち、10～20%近くが病院搬送時に死亡しているため、陽性者においては体調変化に十分留意頂き、体調に不安のある場合には、早期に保健所・CAC・病院等に連絡し、治療介入を求めるようにすることが重要

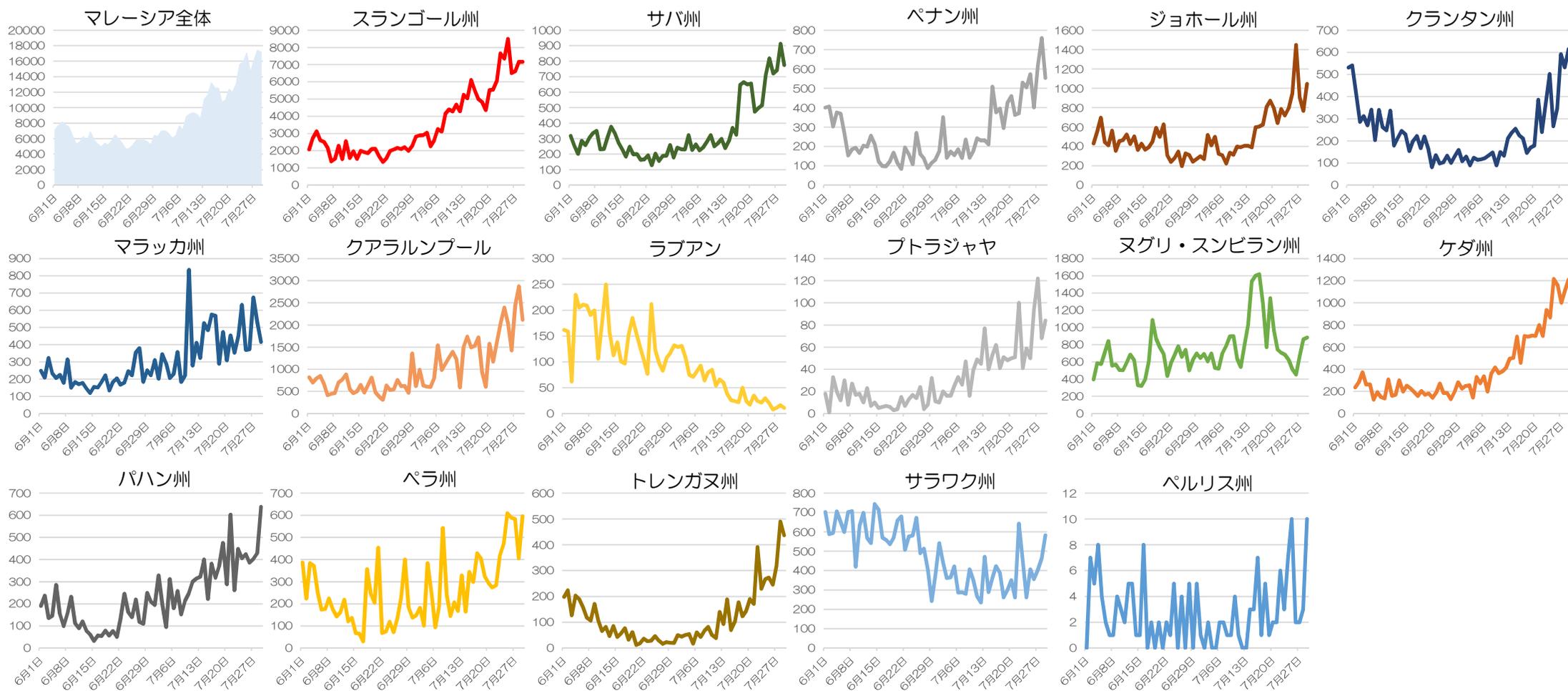
	7月26日			7月27日		
	陽性者数	割合	うち、 ワクチン未完了者割合	陽性者数	割合	うち、 ワクチン未完了者割合
카테고리1	7216	49.7%	96%	9061	56.2%	94%
카테고리2	7045	48.5%	88%	6710	41.6%	80%
카테고리3	83	0.6%	68%	135	0.8%	73%
카테고리4	77	0.5%	86%	124	0.8%	84%
카테고리5	95	0.7%	98%	87	0.5%	95%
	7月28日			7月29日		
	陽性者数	割合	うち、 ワクチン未完了者割合	陽性者数	割合	うち、 ワクチン未完了者割合
카테고리1	9119	52.4%	95%	8488	49.4%	92.0%
카테고리2	7912	45.5%	81%	8299	48.3%	76.0%
카테고리3	120	0.7%	71%	198	1.2%	72.0%
카테고리4	95	0.5%	91%	138	0.8%	86.0%
카테고리5	159	0.9%	97%	47	0.3%	94.0%



カテゴリ-1：無症状 カテゴリ-2：症状あり カテゴリ-3：症状あり、肺炎あり
 カテゴリ-4：症状あり、肺炎あり、酸素補助必要（ICU） カテゴリ-5：多臓器に影響がある重体（ICU）

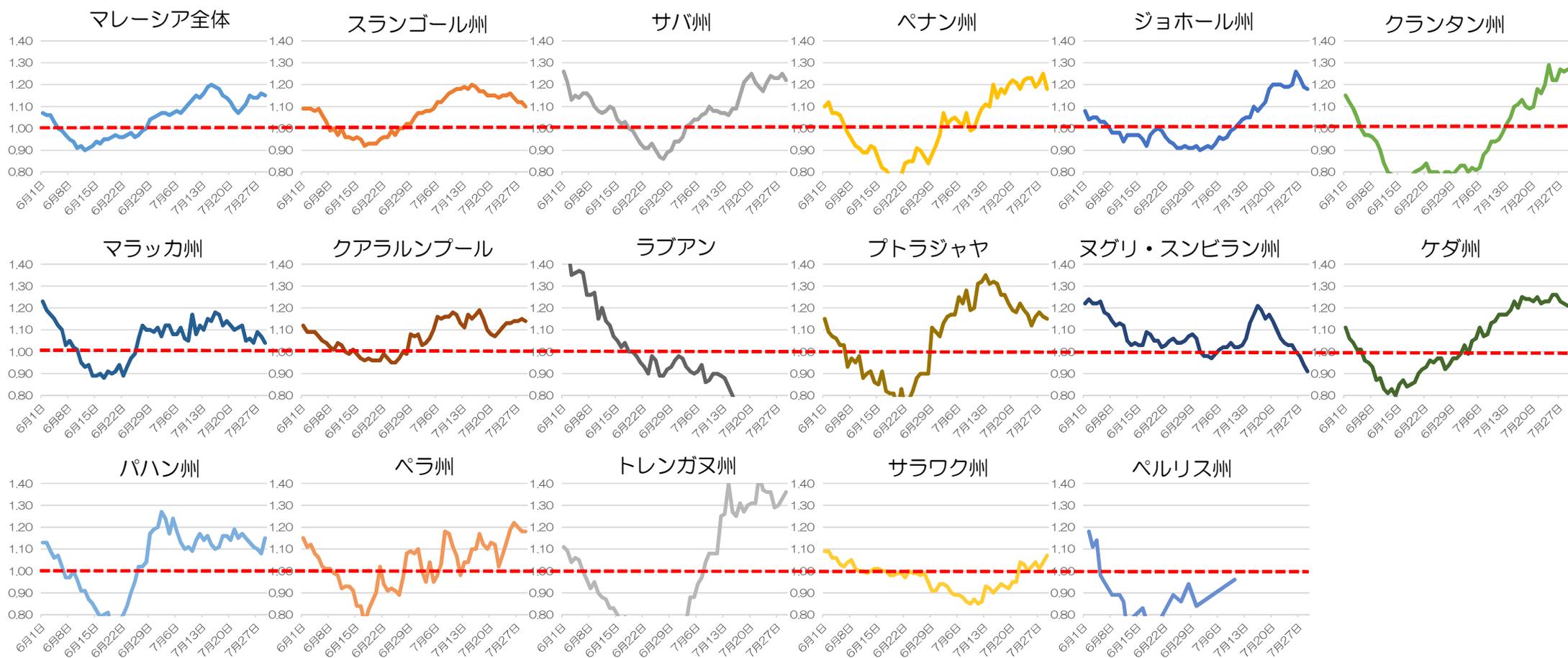
2021年6月から現在（2021年7月29日）までの州別新規感染者数の推移

- ラブアンでは減少傾向にあるが、ほとんどの州では増減を繰り返しており安定していない
- 7月29日現在、スランゴール州、サバ州、ペナン州、クランタン州、クアラルンプール、ケダ州、パハン州、ペラ州及びペルリス州では特に感染が拡大しているが、時期及び地域により変動があるため、引き続き各州の状況を注視する必要



2021年6月から現在（2021年7月29日）までの州別実効再生産数の推移

- マレーシア全体での実効再生産数は6月28日以降「1.0」を超過し、7月15日時点で「1.20」まで増加。その後一旦は減少したが安定せず、7月29日時点で「1.15」を記録している
- 7月29日現在、ラブアン、ヌグリ・スンビラン州、ペルリス州を除く全ての州で「1.0」を超過し、特にトレンガヌ州（1.36）、クランタン州（1.27）、サバ州（1.22）、ケダ州（1.21）が特に高い状況にあるが、時期及び地域により変動があるため、引き続き各州の状況を注視する必要



変異株検出状況（2021年7月29日時点）

WHOが指定するVOCのマレーシアにおける検出状況は以下のとおり。

- ① B. 1. 1. 7（いわゆる「英国型」「アルファ株」）：14例検出（国内9、輸入5）
- ② B. 1. 351（「南アフリカ型」「ベータ株」）：206例検出（国内205、輸入1）
- ③ B. 1. 1. 28. 1（「ブラジル型」）：未だ検出されていない
- ④ B. 1. 617（「インド型」「デルタ株」）：199例検出（国内189、輸入10）

総ゲノム解析数は2021年7月17日までで計632例。

これを7月17日時点の累積陽性症例数（905,851例）で割り戻すと、全陽性症例の「0.070%」がゲノム解析されていることとなり、従って、現時点におけるマレーシアの変異株流行状況全体を捉えるのは困難であることに留意する必要がある。

なお、7月18日付保健省発表によると、7月1日から7月12日までにゲノム解析された検体は48例で、その結果は以下のとおり。検体の採取場所についての情報はなため、地域差を考慮する必要はあるものの、現在感染した場合、それがデルタ株である可能性は高いと考えられる。

- 非VOC/VOI：11例（23%）
- ベータ株：11例（23%）
- デルタ株：26例（54%）

2. 病床状況

（政府系・私立系病院のコロナ用病床状況、クランバレー地域におけるコロナ用ICU病床使用率推移）

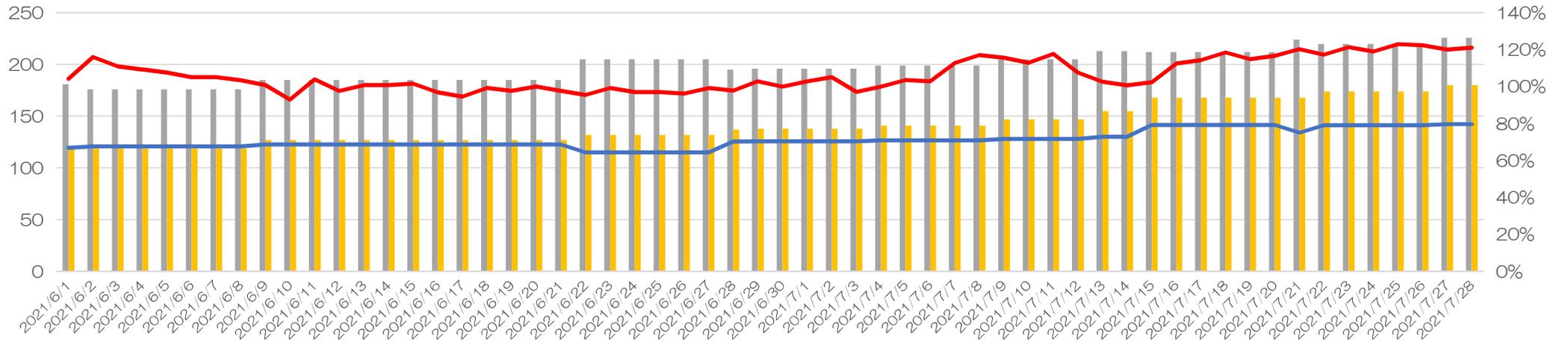
政府系・私立系病院のコロナ用病床の状況

- 7月18日付保健省発表資料によると、政府系病院でのコロナ用一般病床数及びその使用状況は以下のとおり
 コロナ用一般病床：13,229床のうち、10,331床（78%）が使用中（※前週より使用率は6%増加）
- 他方、同時点における私立系病院でのコロナ用一般・ICU病床数及びその使用状況は以下のとおり
 コロナ用一般病床：1,285床のうち、795床（62%）が使用中（※前週より使用率は8%増加）
 コロナ用ICU病床：128床のうち、107床（84%）が使用中（※前週より使用率は19%増加）
- なお、①上記患者には「感染疑い（Suspected/Probable case）」も含まれている点、②全国値であり州別の状況は不明である点に留意する必要がある
- また、7月24日より保健省が州別の病床数等の統計データ公表を開始（<https://github.com/MoH-Malaysia/covid19-public>）
- 7月28日時点の各州の政府系病院のコロナ用ICU病床数及び利用状況についてまとめたところ、以下のとおり（クランバレー地域の利用率推移については別スライド参照）
- 7月28日時点で、約半数の地域で政府系病院のコロナ用ICU病床使用率は100%を超えている状況にあり、これら地域の在留邦人におかれては留意が必要。なお、実際に政府系病院のコロナ用ICUに入院できないとの在留邦人からの相談は現時点までに当館にはなされていない

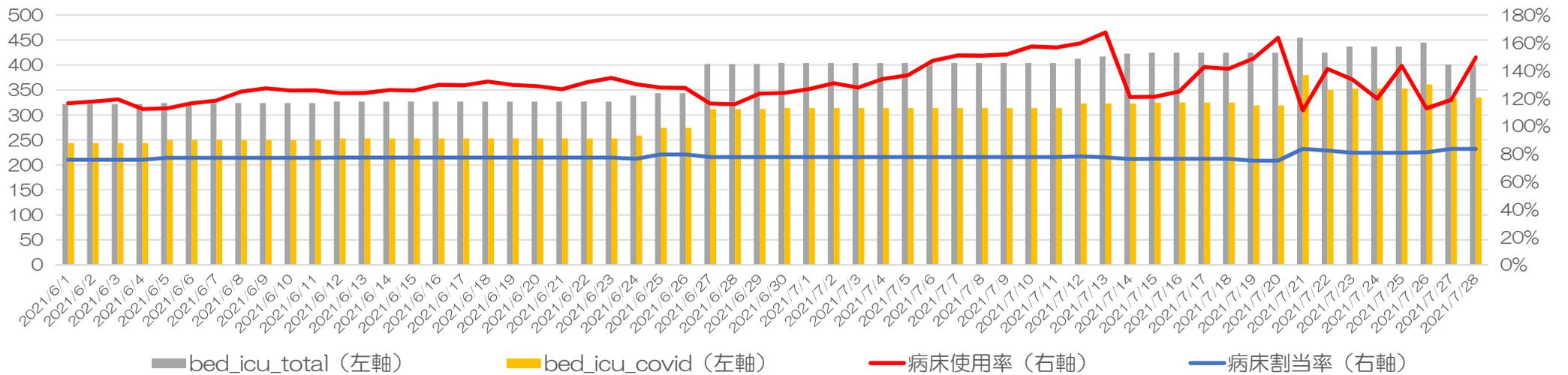
	全ICU病床数	コロナ用ICU病床数	コロナ用ICU病床への割当率	コロナ患者	コロナ疑い患者	コロナ用ICU病床使用率
ジョホール州	187	108	58%	127	0	118%
ケダ州	125	90	72%	118	0	131%
クランタン州	144	60	42%	37	0	62%
マラッカ州	134	83	62%	79	0	95%
ヌグリ・スンビラン州	89	63	71%	73	0	116%
パハン州	68	48	71%	46	0	96%
ペラ州	100	71	71%	109	0	154%
ペルリス州	16	8	50%	4	0	50%
ペナン州	74	70	95%	58	0	83%
サバ州	166	107	64%	86	0	80%
サラワク州	198	120	61%	38	0	32%
スランゴール州	401	335	84%	439	62	150%
トレンガヌ州	56	30	54%	24	0	80%
クアラルンプール	226	180	80%	218	0	121%
ラブアン	23	18	78%	3	0	17%
ブトラジャヤ	26	20	77%	18	0	90%

クランバレー地域における政府系病院のコロナ用ICU病床使用状況 ※保健省データより当館作成

クアラ Lumpur のコロナ用ICU病床使用状況



スランゴール州のコロナ用ICU病床使用状況



bed_icu_total (左軸)
 bed_icu_covid (左軸)
 病床使用率 (右軸)
 病床割当率 (右軸)

3. ワクチン（調達状況、ワクチン接種計画、接種状況）

ワクチン調達状況（7月30日時点）

	調達元	調達量	配布開始時期	薬事状況
1	ファイザー	4,480万回（70%相当）	2021/2/24	条件付承認（2021/1/8）※ベルギー工場 条件付承認（2021/3/2）※ドイツ工場 条件付承認（2021/6/15）※対象を12歳以上に拡大
2	アストラゼネカ	640万回（10%相当）	2021/5/5	条件付承認（2021/3/2）※オランダ 条件付承認（2021/4/2）※SKバイオサイエンス社（韓国） 条件付承認（2021/6/4）※サイアムバイオサイエンス社（タイ）
3	Sinovac	1,200万回（18.75%相当）	2021/3/18	条件付承認（2021/3/2）※完成品 条件付承認（2021/4/23）※ファーマニアガ社国内製造品
4	CanSino	350万回（10.9%相当）	2021/7末	条件付承認（2021/6/15）
5	スプートニクV	640万回（10%相当）	不明	申請済み（審査中）
6	JJ	不明	不明	条件付承認（2021/6/15）※COVAX経由 条件付承認（2021/7/16）※ベルギー工場製造
7	Sinopharm	不明	不明	条件付承認（2021/7/16）
8	COVAX	640万回（10%相当）	2021/5/5	-

2021年7月18日、ムヒディン首相は自身のSNSにおいて、今後のワクチン接種方針について以下を表明した。

- ✓ スランゴール州及びクアラルンプールの成人人口の全員が、2021年8月1日までに、少なくとも1回のワクチン接種を受ける
- ✓ サラワク州の成人人口の全員が、2021年8月末までに、少なくとも1回のワクチン接種を受ける
- ✓ ほぼ全ての州で、2021年8月末までに、50%を超える接種率を記録する
- ✓ 全ての州で、2021年9月までに、70%を超える接種率を記録する
- ✓ **マレーシア全土で、2021年10月までに、100%の接種率を記録する**

またJKJAVは、クランバレー地域におけるワクチン接種について「ウォークインワクチン接種」が開始する旨発表した

- ✓ 2021年7月17日より、スランゴール州及びクアラルンプールに居住する高齢者の方であって、かつ、MySejahteraアプリ等で未だ接種予約を受けていない方については、同地域にある接種センターにて、予約無しで「ウォークインワクチン接種」をすることが可能。
- ✓ また、2021年8月1日より、「ウォークインワクチン接種」は上記地域の18歳以上に拡大されるが、対象は2021年8月1日までにワクチン接種日を指定されていない方（例えば、身分証明を有さない方や有効な渡航文書を有さない方）に限り、予約通知を受けた方や既に1回目接種を受けた方については対象外。

ワクチン接種状況（7月29日時点）

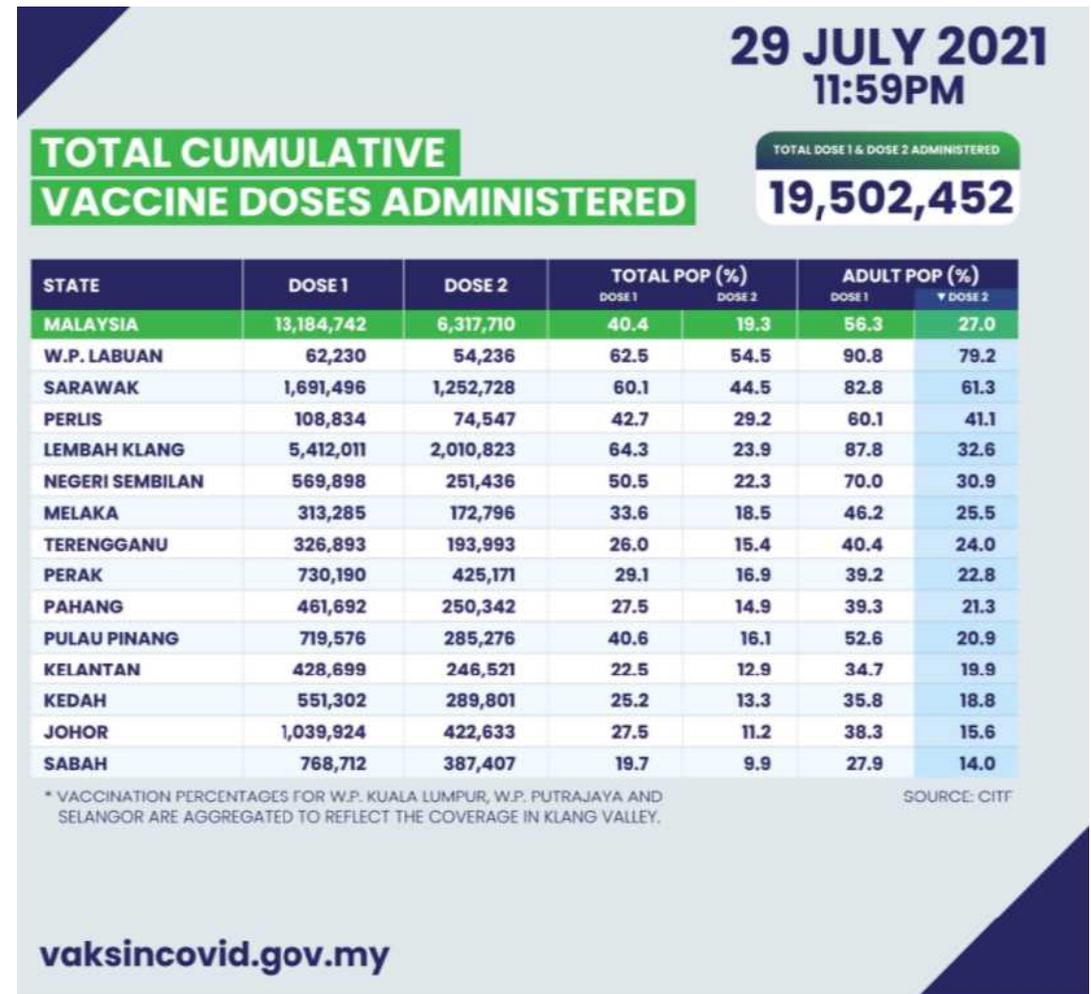
- 1回接種：全人口40.4%相当
（成人人口56.3%相当）
- 2回接種：全人口19.3%相当
（成人人口27.0%相当）

（参考：7月22日時点）

- 1回接種：全人口32.4%相当
（成人人口45.2%相当）
- 2回接種：全人口15.1%相当
（成人人口21.1%相当）

<副反応報告（7月5日報告）>

- 軽微なものも含めると1000回当たり「18.6件」
- 入院等を要した事例は1000回当たり「1.4件」
- ただし、長期入院や死亡事例等は報告されておらず、被害補償された者もない



**LINDUNG DIRI,
LINDUNG SEMUA.**



**SPECIAL COMMITTEE ON ENSURING ACCESS
TO COVID-19 VACCINE SUPPLY (JKJAV)**

4. 国家回復計画 (NRP)

国家回復計画（NRP）の概要

<国家回復計画（NRP）>

- (1) 段階は1から4まで設定。1が6月1日からの「完全ロックダウン」、4が州間移動も認められる緩和された規制。
- (2) 各段階の移行は、①新規感染症例数、②公衆衛生システム状況（ICU病床使用率等）、③ワクチン2回接種率に基づき検討・判断され、具体的な要件は下表のとおり。
- (3) 2021年7月3日以降、州別に各要件を評価し、段階移行させることを発表。併せて「人口10万人当たり新規症例数」及び「成人ワクチン2回接種率」に要件を変更。これに基づき、7月5日に5州（ペルリス州、ペラ州、クランタン州、トレンガヌ州、パハン州）が、7月7日にペナン州が、7月10日にサバ州が、7月14日にサラワク州が第2段階へ移行。州毎の要件への該当状況は次スライドのとおり。
 ※ただし、「強化された活動制限令」（EMCO）対象地域では、より厳格な規制が適用される。なお、スランゴール州及びクアラルンプールの一部地域に対して課せられていたEMCOは7月16日付で終了。

段階	規制概要	当該段階への移行要件		
		1日あたり人口10万人当たり新規感染症例数	ICU病床使用率	成人ワクチン2回接種率
第1段階	6月1日からの完全ロックダウン			
第2段階	経済活動を段階的に許可（出勤率最大80%）	12.2以下	中程度（恐らく50～70%）	10%
第3段階	早ければ本年8月に移行予定 基本的に全ての産業が稼働（出勤率最大80%） 議会開会（9～10月頃見込み）、教育・社会・スポーツ活動を段階的に許可	不明	50%未満	40%
第4段階	早ければ本年10月に移行予定 全ての産業が稼働し、州間移動も可能	不明	50%未満	60%

<国家回復計画第1段階> ※現在8州を除き全国で施行中

- (1) 生活必需品購入のための外出は一世帯から2名まで、居住地から半径10キロメートル以内
- (2) 原則、在宅勤務（農業、漁業、畜産業、プランテーション業等の一部の産業は出勤制限なし、一部製造業及び生活産業関連は従業員数の60%を上限とし出勤可）。
- (3) 飲食店での店内飲食は不可（持帰り・ドライブスルー・宅配は可、営業時間は午前8時から午後10時まで）。
- (4) 企業イベント、大規模参加型スポーツイベント、映画館、美術館・博物館は休業。学校閉鎖。

各州におけるNRP要件（第2段階への移行基準を満たしていないものは赤字）

	人口10万人当たり新規感染症例数 ※7/22-7/28の平均	ICU病床使用率 (7月28日時点)	成人ワクチン2回接種率 (7月29日時点)	国家回復計画の段階
ペルリス州	1.9	50%	41.1%	2 (7/5~)
ケダ州	45.8	131%	18.8%	1
ペナン州	30.3 (※)	83%	20.9%	2 (7/7~)
ペラ州	19.1 (※)	154%	22.8%	2 (7/5~)
スランゴール州	109.1	150%	32.6% (スランゴール+KL+プトラジャヤ)	1
ヌグリ・スンビラン州	57.0	116%	30.9%	1
マラッカ州	51.9	95%	25.5%	1
ジョホール州	24.2	118%	15.6%	1
パハン州	23.5 (※)	96%	21.3%	2 (7/5~)
トレンガヌ州	25.4 (※)	80%	24.0%	2 (7/5~)
クランタン州	21.6 (※)	62%	19.9%	2 (7/5~)
サバ州	18.0 (※)	80%	14.0%	2 (7/10~)
サラワク州	15.2 (※)	32%	61.3%	2 (7/14~)
クアラルンプール	118.9	121%	32.6% (スランゴール+KL+プトラジャヤ)	1
プトラジャヤ	73.5	90%	32.6% (スランゴール+KL+プトラジャヤ)	1
ラブアン	18.8	17%	79.2%	1

※7月14日、ザフルル財務大臣兼NRP調整大臣は、第2段階へ移行した州は第1段階へ戻ることは無い旨述べている。

5. 濃厚接触者又は陽性者になった場合の流れ

濃厚接触者の考え方

保健省ガイドライン（2021/04/22）での定義は以下のとおり。

- ①適切なPPEを使用せずに陽性患者をケアし暴露した医療者等
- ②陽性患者と同世帯の者
- ③陽性患者と同空間で近接して勤務した者
- ④陽性患者と共に旅行した者

上記定義を踏まえつつ、保健所職員が感染者聞き取りにより特定。「症状発症14日前」までの者が濃厚接触者として該当する可能性あり。

（以下、濃厚接触者として特定された場合の流れ）

保健所から連絡があるため、その指示に従い、COVID-19検査（無料）を受ける



検査後から結果が出るまでの間は、リストバンドを付与された上、自宅隔離指示が発出される



（検査陽性の場合）

- ◆ 無症候又は軽症の場合であって「コロナ評価センター（CAC；Covid-19 Assessment Center）」による評価の結果自宅隔離が認められた場合は、自身で健康状態をチェック・報告しつつ、検査日から起算して最低10日間、自宅隔離を継続。中等症以上（次スライドステージ3以上）の場合は、COVID-19対応病院へ搬送。
- ◆ なお、感染者急増のためCACから連絡が遅れる場合があるが、健康に不安を感じる場合は自らCACへ連絡することが推奨される。（各州毎のCAC連絡先； <http://covid-19.moh.gov.my/hotline>）

（検査陰性の場合）

- ◆ 自身で健康状態をチェック・報告しつつ、検査日から起算して14日間、自宅隔離を継続
- ◆ 隔離13日目に迅速抗原検査を実施。陰性結果の返却の際、リストバンド除去され、隔離終了
- ◆ 途中で症状を示した場合又は隔離13日目検査陽性の場合、上記病院等へ搬送される

なお、クランバレー地域については、

- ・陽性者（無症状又は軽症）は自宅隔離
- ・濃厚接触者で無症状の者は検査不要

となります。詳細は当館HP（https://www.my.emb-japan.go.jp/itpr_ja/newinfo_27072021.html）をご覧ください。

陽性者の治療方針

Clinical Stage	症状の有無・程度	治療方針（成人） ※2021/4/28時点	治療方針（子供） ※2020/3/31時点
1	無症状	無治療	無治療
2	症状あり 肺炎なし	無治療 (バイタルサイン及び酸素飽和度はフォロー)	抗マラリア薬（ヒドロキシクロロキン）
3	症状あり 肺炎あり	基本的には無治療 (バイタルサイン及び酸素飽和度はフォロー) ただし、以下のハイリスク者についてはステージ4相当として「ファビピラビル（アビガン）」を投与 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎疾患を持つ50歳以上の者 ・末期腎不全患者 ・危険兆候（※）のある者 ※持続的発熱、食欲不振、呼吸障害、CRP上昇等	抗マラリア薬（ヒドロキシクロロキン） ただし、危険兆候のある者については「抗ウイルス薬（ロピナビル／リトナビル）」
4	症状あり 肺炎あり 酸素補助必要	抗ウイルス薬投与（ファビピラビル） 免疫調節（デキサメタゾン、メチルプレドニゾン）等	ヒドロキシクロロキン 抗ウイルス薬（ロピナビル／リトナビル）
5	多臓器に影響がある重体	ICUケア	ヒドロキシクロロキン、ロピナビル／リトナビル、リバビリン、インターフェロンβ

低リスク隔離・治療センター（PKRC）

- 「ステージ1又は2」の者については、**基本的には一定期間ただ隔離されるだけ（無治療）**のため、COVID-19対応病院ではなく、**低リスク隔離・治療センター（PKRC）**への搬送又は**自宅隔離**となる（自宅隔離の可否は前述のとおりCACが評価を行う）。
- PKRCは隔離に特化した施設（政府の研修センターなどを隔離用に急遽作り替えたもの）のため、COVID-19対応病院より**環境が良くないことを覚悟**する必要。実際の事例として、衛生的・防犯上の理由からシャワーやトイレに行きづらく、また食事の際にスプーンなども配布されないという相談あり。この際は、保健省及び当該PKRC責任者に改善を申し入れ、同日中に別のPKRCへ移送された。現在は、PKRCへ搬送されうる「ステージ1（無症候）」及び「ステージ2（軽症）」の者については自宅隔離が認められたが、隔離生活において衛生上又は防犯上の問題がある同様のケースの場合は当館にご相談を。



（邦人が入所したPKRCの例）
二人部屋、軽症者の外国人と同室



（邦人が入所したPKRCの例）
大部屋に多数の外国人と同居



スプーン等も
配布されない食事

- なお、5月21日以降、PKRC隔離をホテル隔離（有料）に切り替えることも可能。詳細は以下当館HP参照のこと。

PKRC隔離からホテル隔離への切り替えについて（2021年5月21日）

https://www.my.emb-japan.go.jp/itpr_ia/newinfo_21052021.html

退院基準等

- （成人の場合、）ステージ3以上の場合は、COVID-19対応病院で前述の治療を受ける。当該病院は、KLではKL病院、スランゴール州ではスンガイブロー病院等と政府により予め指定されており、邦人がよく利用する民間病院などは選択できないが、一旦政府系病院へ搬送された後、政府系病院の医師の許可があり、かつ、自身で私立病院の空き病床を確保することで、私立病院への転院も可能。
- 現行の退院基準（2021/5/28時点）は以下のとおり。当初無症状だが途中発症した場合、発症日計算でカウントし直されるため留意が必要。
 - ①有症状（カテゴリー1～3）かつ重篤な免疫障害の無い者は、以下3点を全て満たした場合に退院可能
 - ・症状発症後、少なくとも10日間経過していること
 - ・解熱剤なしで解熱してから、少なくとも24時間経過していること
 - ・呼吸困難、咳など他の症状が改善していること
 - ②無症状の者は、「PCR検査で陽性が確認された日から起算して10日経過」した場合に原則退院可能。
 - ③有症状（カテゴリー4～5）又は重篤な免疫障害のある者は、以下3点を全て満たした場合に退院可能
 - ・症状発症後、少なくとも10日間（最長20日間）経過していること
 - ・解熱してから、少なくとも24時間経過していること
 - ・他の症状が改善していること
- なお、退院の際に検査は行われぬ。また早期退院が認められた場合は、上記要件を満たすまで引き続き自宅隔離することが求められる。